

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立真駒内公園小学校

1 本年度の重点目標
「未来に向けて たくましく生きる子の育成」 ～子どもも教職員も一人一人が主人公となる学校～

2 本年度の経営方針
○一人一人が主人公となる学校
目指す子ども像



3 自己評価結果に対する学校関係者評価

達成状況は4段階評価 (A : 4~3 B : 3~2 C : 2~1 D : 1未満)

評価項目	今年度取り組んできたこと	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善策の適切さ
1 学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が主人公となる学習の推進～主体的に学び、自己を高める姿(校内研究:探求的学習を含む)(A) 小中一貫した教育の推進(学習)～札幌教研春の研究集会(A) GIGAスクールへの対応→教育DXに向けて(B) 	A	<p>2か年計画校内研究の一年目、「やってみたい、知りたい、できるようになりたいという思いをもつ姿」が表れる授業について実践と評価を繰り返し行い、「主体的な姿」とは具体的にどのような姿なのかやそのための手立てについて議論を深めることができた。次年度2年目は、「自分の考えを表出して他者とかかわり、考えを深める姿」を求め、「主体的に学び、自己を高める姿」を明らかにしていく。新たな取組である小中一貫した教育の推進(春の研究集会)では、曙中学校区3校が会し、テーマごとに8部会に分かれて、「めざす15歳の子ども像」について、有意義な情報交換を行うことができた。次年度も8つのテーマを継続し、9年間の系統性・連続性のある教育の更なる充実を図っていく。GIGAスクールにおいては、一年生から一人一台端末の使用が当たり前となってきているが、より重点化した活用について考えていくよう推進していく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に学ぶ」「自己を高める」ことは、家庭環境が大いに影響します。子どもの背景も考えていくとよい。 PCを使った授業が進んでいるが、手で書くことも脳の活性化に関連して大事にしてほしい。量的にも確保することが大事である。 学力の他に人間力も大切である。個々の特性を生かした研究テーマを考えていただきたい。 小中一貫した教育では、パートナー校との連携をさらに深められるとよいと思います。 			
2 健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 運動に親しむ場と指導の充実(A) 健康(生・性)に関する教育の推進(A) 食育の推進(A) 安全教育の充実(A) 	A	<p>休み時間を利用したはるにれ広場での縄跳び、12月の跳び箱Week、2月の縄跳び週間などの場を設定することで、子どもたちが自ら運動に親しむ姿が見られた。次年度は冬期間の運動に親しむ場づくりを考えていく。健康に関する教育では、各学年の学級活動年間計画に、1年「パンツはなぜはくの」～6年「異性の友達」を位置付けて実施してきた。食育においても親学校の栄養教諭と本校担当教諭が密に連携し、その時その時の子どもの課題に応じたテーマを設定し効果的な指導を行うことで、望ましい食習慣への意識をもつことができた。安全教育については、今年度、危機管理マニュアルに新たに熱中症対策を盛り込むことで、全校で意識を高めて日々の教育活動にあたることができた。次年度もルームエアコンの設置はないので、引き続き熱中症には十分な注意と対応を行っていく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 性に関する教育は、高学年の場合、男女で心身ともかなりの差が生じると思われる。内容について、男女一緒に学ぶことがよい場合、別々に学ぶことがよい場合がそれぞれあると思われる。 サプリではなく生の食物で体を作っていただきたい。給食でも考えてほしいと思います。 授業以外に運動に親しめるよう創意工夫がなされています。健康・食・安全とバランスのよい取組は素晴らしいと思います。 			

3	豊かな心の育成	いじめへの対応 (A) LGBTs (A)	A いじめ対応については、年度初めに全職員による研修会を実施し、いじめの定義・認知・解消について、「いじめ防止対策基本法」や「生徒指導提要（文科）」に基づいた理解を図った。また心の健康観察アプリ「シャボテンログ」により全校児童の心と体の不調を把握し、未然防止・早期発見に役立てることができた。一方で、いじめ対応に対する教員の負担が大きく、効率的かつ効果的な実施を工夫していく必要があると考える。LGBTsについては、小中一貫パートナー校の枠組みで講師を招いた研修会を実施し、理解を深めることができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・いじめられているという感覚は仲間へはもちろんのこと先生に対してもあります。常にいじめられている子どもの味方であることを望みます。 ・いじめは児童だけではなく、親の問題もあると思うので、大変なことと思う。基本的には、相手を認める心の問題であると思う。 ・多くの友達をつくるための遊びや交流など、子どもたちの人間関係を広げるための活動を検討してほしい。 ・日常からの観察がいじめの防止につながり、豊かな心を育てていると思います。 		
4	関わり合いの推進	真駒内ならでの教育の充実 (A) まこえん活動の推進 (A) 幼保小連携の推進 (A) 小中一貫した教育の推進 (B)	A 1年「水辺の楽校」や「真駒内スケートリンク開き」への参加など、引き続き真駒内ならでの教育の充実を図ることができた。まこえん活動では、「ふれあい遠足」や「雪中大会」「似顔絵集会」など、様々な活動において異学年児童の温かいふれ合いの様子が見られた。小中一貫した教育の枠組みの中では、児童会・生徒会を中心とした交流の機会を設けていくことも視野に入れて推進を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟姉妹の少ない時代、下級生の面倒を見ることで、人との付き合い方が学べることはとても重要なことと思う。 ・せっかく真駒内に住んでいるので、昆虫や花、鳥などの自然に触れ合いながらの人づくりも大切だと思います。 ・小中一貫だけでなく、広く地域とのかかわり合いを広げていると思います。 		
5	信頼される学校の創造	子どもの安全を優先 (A) 特別な配慮を要する児童等についての組織的体制の強化 (A) ・コミュニティスクールへの対応	A 子どもが安心して学校に通うことができる学級づくり、温かい教師のかかわり、保護者の理解を得ることの重要性について、全教職員で研修等を通して理解を深めてきた。不登校対策では、校内教育支援センターを新たに設置したことで、登校できるようになった児童が複数見られた。校内教育支援センターでは、相談支援パートナーを中心に児童の対応にあたっているが、人員配置の工夫が必要である。コミュニティスクールについては、令和9年度の開設に向けて計画が進んでいるところである。	A	A
学校関係者評価委員による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・ありがたいの会を見学し、子どもたちの表情を見て教職員に信頼感をもつことができました。 ・学校がどうしたら好きになれるのか、子どもたちから意見を聞いたりして、可能な対応ができたらいと思います。 ・児童理解と支援について研修を積み、児童を支援していることは素晴らしい。不登校児童の対応もよいものと思います。 		

6	教職員の負担軽減	学級事務の時間の確保 (A7) 環境整備 (A) ICTの更なる活用 (A) 学校徴収金の改革 (A) 配布物の精査 (A) 便利器具の導入 (A)	A	昨年度から引き続き、働き方改革に関する意識が浸透し、教職員からの要望・意見が出されるようになり、協働意識が高まる中で、改革が大いに進んでいる。次年度は、余剰時数の見直しを図ることや、授業はもちろん行事活動においても、ねらいを重点化した効果的・効率的な活動へとブラッシュアップを図ることで、教職員が子どもたちに関わる時間の確保と業務全般における環境整備を更に進めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・「効果的」「効率的」によって、子どもに何らかの無理を強いることのないようにすべきである。 ・教える教員たちが元気よく楽しんでいなければ、子どもたちも元気がでない。教員のサポートを充実させていくことは重要なことである。 ・先生が教えるのではなく、子どもと一緒に遊ぶくらいの考え方で楽しい思い出ができることを考えてほしい。 ・教職員からの意見を受け止め改革を進められている点が素晴らしいと思います。 			
7	教職員の働きがい	目指す子ども像の共有 (A) 校務分掌の再編 (A) 自己目標シートの活用 (A)	A	目指す子ども像を一本化することで、教職員全体で共通理解が図られ、一貫した教育活動を展開することができた。また、教職員の資質を生かし反映させることで、学級・学年の経営の精選、校務分掌において効率的・合理的に行うことにつながった。次年度も継続していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の一本化について、ついていくのに苦しい子がでないよう慎重に進めていくことが必要である。 ・目指す子ども像をあまり強く意識すると、窮屈になりかねない。柔らかく育ててほしい。 ・目指す子ども像の共有から、校内全体で学校運営に参画している点がよいと思いました。 			
8	教職員のスキルアップ	校外での研修でスキルアップ (A) 教師のスキルアップ・指導力向上 (B) 学年研修の充実 (A)	A	今年度より、「全国教員研修プラットフォームPlant」が導入され、校外での研修や自主的に参加した研修がシステムで一元管理されることとなり、校内面談において活用している。これにより、教職員が今年度のスキルアップのテーマを定め、主体的に研修に参加する姿が見られた。次年度は、より主体的な取組を推進し、校外での学びを校内での学びや実践に生かす研修をデザインしていく。学年研修の充実について、次年度は「水5の日」等、日課表を一部見直すことにより、児童理解や教師の専門性を高める研修の時間を充実させていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見			<ul style="list-style-type: none"> ・自分（教師）のためのスキルアップが教える子どもたちの気持ちを優しく和やかにするものであればベストだと思います。 ・単なるスキルアップではなく、教科そのものや子どもの心理的発達の深い理解の下で、指導力が上向くことを願っています。 ・校内だけでなく、校外での学びにも力を入れようとする姿勢は素晴らしいと思いました。 			